

千松小学校
「学力向上実行プラン」

- 児童が自分の思いや考えをもち、表現したり深めたりする授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上 推進員 大久保 美佳	委員	校長：中野勝邦	教頭：大荒美臣	教頭：野上真由美	教務：三浦弘章
		指導教諭・6年主任：西山あけみ			
		5年主任：近藤明美		4年主任：森美帆	
		3年主任：清水由香		2年主任：大泉和代	
		1年主任：篠原芳			
		研修主任：山下祐美		特別支援学級主任：平美由紀	
		若手教員研修主任：白水理絵			

校長

中野 勝邦 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組む児童が多く、基礎・基本的な知識・技能は、身に付いてきている。 ●全体的な学力の低下が見られる。基礎・基本的な知識を活用することに課題がある。	・既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を確実に習得することができる。 ・身に付けた知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・正確に読み取らせるために、教科書にアンダーラインや囲みを入れた確実に捉えさせる。 ・ドリルやプリント、タブレット端末を活用して、既習事項を繰り返し復習できるようにする。 ・光る子十カ条を徹底し、授業や家庭学習にじっくり取り組む習慣をつけられるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。また、タブレット端末のドリルや、学習プリント、学力向上確認プリントなどを使って、学習の定着を図る。	・教科書への書き込みなどは、学習内容の定着に効果的であった。また、国語事典タブレット端末など、資料から情報を収集する経験を積み重ね、学力の定着を図った。 ・国語、算数を中心として既習内容をドリルやプリントで繰り返し学習を行ったことや家庭学習と連携させることで基礎・基本の定着を図った。また、教科の学習を生活に生かせるような活動を取り入れた。 ・光る子十カ条を学級に常掲、及び個人配布することで習慣化してきた。	・効果的であった方策を継続して行うとともに、理解や定着につながる支援方法を工夫する。 ・光る子十カ条を今後も継続して行い、習慣化を目指す。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞こうとする態度が身に付いてきている。 ●根拠を明確にして自分の考えをもち、思いや考えを表現したり、伝え合うことで、さらに考えを深めたりすることに課題がある。	・各授業の課題等に対して話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・話を最後まで聞き内容を理解し、自分の考えを明確にもって適切な言語活動により表現したり、深めたりすることができる。	・ホワイトボードやメモ・付箋を活用して自分の思いや考えを書く場面を増やし取り入れる。 ・ペア学習での意見交換やグループ学習の話し合う機会を効果的に設定する。 ・児童の発表内容に応じ、更に考えが深まる発問を行う。 ・問題集を厳選し、児童の学びの時間を確保する。 ・自分の考えをまとめたり意見交換をしたりする場面などで、タブレット端末を効果的に活用する。	・これまでの方策を継続しつつ、発達段階に応じてタブレットを活用したり、表現のしかたを工夫したりしていく。また、友だちと考えを共有する場を取り入れ、思考の過程を表現したり説明したりすることができるよう、指導の工夫を行う。	・ペアやグループなど多様な学習形態、思考ツールやタブレット端末を使った学習、考えや思いを伝える場面を意図的に設定し、伝え合った。課題を話し合うことで思考を深めることができた。 ・児童の発表に対し「なぜ」を問う発問、根拠や理由を説明する機会を多く取り入れ、考えが深まるよう促した。その結果、自信をもって発表する力や様々な身の回りの事象と自分の生活とを結びつけて考える力が向上した。	・ペアやグループ学習、ICTの活用など、必要に応じた学習方法を効果的な場面で取り入れる。 ・指導者のタブレット端末活用のスキルアップ、またタブレット端末を活用するための準備・教材開発をし、授業に生かせるようにする。 ・相手意識をもって表現する機会を増やし、表現力の向上につなげる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組む。与えられた課題には、真面目に取り組む。 ●自分で課題を見つけて、工夫して学習に取り組もうとすることに課題がある。自尊感情が低い。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができるとともに、自分に自信をもつことができる。	・何を学ぶのが伝わるよう、授業のめあてを提示するとともに、ノートやワークシートなどで学んだことを振り返る場面を工夫し設定する。 ・児童のがんばりや成果を褒め、達成感や次時への意欲、課題意識をもてるようにする。	・これまでの方策を継続しつつ、がんばりや成果が実感できるようにする。また、児童同士のかかわりからも、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげていく。	・学習の開始時にはめあてを全員で確かめ、何を学ぶか明確にすることで意欲的に学べた児童が多かった。 ・手本となる自主学習ノートを掲示したり紹介したりして、共有することができた。 ・振り返りの観点を示したり、時々の課題設定につなげたりすることで、児童の主体性を高めた。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場の設定やICTの効果的な活用など、児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができるような手だてを考え準備する。 ・単元の見直しをもち、学習に自主的に取り組めるよう工夫する。 ・個別に振り返りたりまとめたりする時間を設け、達成感等を実感できるよう指導方法等を工夫する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

